

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第1回 気象レーダー作業班 議事概要(案)

1 日時

平成29年10月13日(金) 16:00～17:30

2 場所

中央合同庁舎2号館 総務省 10階 共用1001会議室

3 出席者(敬称略)

主 任 : 川西 哲也

主 任 代 理 : 牛尾 知雄

構 成 員 : 相川 和則、石垣 悟、山崎 高日子(代理)、工藤 則安、小出 孝治、大場 憲(代理)、清水 昭典、浜崎 浩文(代理)、鷹取 泰司、田北 順二、田島 慶一、松山 広(代理)、田中 祥次、田村 知紀、花土 弘、松田 圭太、今井 克之(代理)、山路 昭彦、山本 雅也、横山 悠、米本 成人、佐藤 裕子(代理)

事務局(総務省) : 長嶺 基幹通信室長、馬場 課長補佐

4 配布資料

気レ作1-1 気象レーダー作業班運営方針

気レ作1-2 気象レーダーの技術的条件に関する検討(案)

気レ作1-3 気象レーダーの概要

気レ作1-4 世界最高性能 気象用フェーズドアレイレーダの開発

気レ作1-5 センシングとネットワークの融合

気レ作参1-1 報道発表資料

「気象レーダーの技術的条件」-情報通信審議会への諮問-

気レ作参1-2 陸上無線通信委員会資料

「気象レーダーの技術的条件」に関する検討の進め方(案)

5 議事概要

(1) 開会

(2) 総務省挨拶

(3) 作業班主任挨拶

(4) 作業班構成員の紹介

(5) 議事

① 気象レーダー作業班の運営方針

事務局が資料「気レ作1-1」に基づき説明を行った。

② 気象レーダーの技術的条件に関する検討(案)

事務局が資料「気レ作1-2」に基づき説明を行い、(案)のとおり承認された。質疑等は以下のとおり。

浜崎構成員代理 : 気象レーダーの技術条件の検討に当たって、衛星放送受信設備にどのような影響があるかを確認したいと考えている。今後、実機を用いた実験は予定されているか。

事務局 : まずは、船舶レーダー等も含め、過去のレーダー関係の技術試験事務で得られたデータを活用して机上検討を行う。その上で、不足する事項があれば実験も想定しなければならないと考えている。

田島構成員： X帯の検討対象のうち9.7GHz帯については、資料1-2中のスケジュールに記載が無いが、どのようなスケジュールで検討を行うのか。

事務局： 9.4GHz帯を先行して検討する予定であるが、共通する部分は、並行して検討を行うことも想定している。

田村構成員： 他システムとの共用検討は作業班で行うということだが、具体的に検討が開始されるのは、第2回の作業班という認識でよいか。

事務局： サブ・ワーキング・グループにおいて作業班に報告する資料を作成するので、事前に他システムの関係者に資料の内容を確認して頂きながら、作業班を進めていくことを想定している。

川西主任： 資料1-2の進め方について、特段の修正等のご意見はないため、案のとおり了承してよろしいか。

全 員： 了。

③ 気象レーダーの概要

事務局が資料「気レ作1-3」に基づき説明を行った。

④ 研究の紹介

牛尾主任代理が資料「気レ作1-4」に基づき、川西主任が資料「気レ作1-5」に基づき説明を行った。質疑は以下のとおり。

米本構成員： 大阪大学に設置されているフェーズドアレイレーダーについて、電波の占有周波数帯幅、波形はどのようなものか。

牛尾主任代理： 送信波形はリニアチャープ型であり、占有周波数帯幅は6MHzである。

田中構成員： その仰角の観測範囲は何度から何度か。

牛尾主任代理： 0 ～ 90度である。

田中構成員： 共用検討では、空中線の指向特性が要になってくると考えるが、衛星放送受信設備が設置されている位置に対し、垂直方向にもメインビームが送信されるということになるのか。

牛尾主任代理： そう考える。

⑤ その他

事務局が今後の作業班及び各サブ・ワーキング・グループの開催予定について説明を行った。質疑は以下のとおり。

山崎構成員代理： 資料には、X帯の具体的なスケジュールが示されている。一方、C帯の第4回までの開催予定は分かるが、検討内容が示されていない。それはどの程度決まっているのか。

事務局： 第4回までにC帯気象レーダーの技術基準案を固め、その後、共用相手である5GHz帯無線LANとの共用検討を行うことを想定している。

(6) 閉会